

令和6年度

川崎市立新城小学校

いじめ防止基本方針

川崎市立新城小学校 令和6年度 学校経営計画

教育基本法・学習指導要領

子どもの命・心・学びを守る

かわさき教育プラン・キャリア在り方生き方教育
ESD(持続可能な開発のための教育)
SDGs(持続可能な開発目標)

【学校教育目標】「心も強く 体も強い子」

★健康でたくましい子(体・態)

★よく考え進んで行動する子(知)

★仲良く助け合う子(徳)

【学校経営方針】

◎知・徳・体(態)の調和のとれた子どもの育成を図る。 ◎情操を豊かにし、礼儀や挨拶などを大切にする気風を養う。
◎子どもの夢や願い、保護者や地域の思い、そして、新城小学校の伝統や文化と地域の特色を大切にして、いきいきとした教育を目指す。

★自分の夢や将来、生き方・在り方につなげる 新城小学校子ども未来教育

学校経営重点目標

★健康でたくましい子

- 進んで体を動かし、健康や安全、食について考え、それを生活に生かすことができる子
- 自分の考えや思いをしっかりとし、自分のことは自分の力でできる子
- すぐにあきらめず工夫したり、努力したりして、自分の力でたくましく乗り越えていける子

★よく考え進んで行動する子

- 「なりたい自分」にむかって、必要な力や態度を身に付けようとする子
- 問題解決を目指し、主体的対話的深い学びを通して学びを深め合う姿勢や自分を振り返る姿勢を大切にしながら、自分のよさや可能性を粘り強く追求する子
- 学校生活をよりよくするため創造的に活動できる子

★仲良く助け合う子

- 人の気持ちを考え、その気持ちを受け止めたり、よりそったりしながら、人のために尽くそうとする子
- 友だちと仲良くし、互いに助け合おうとする優しい気持ちや態度を大切にする子
- 場面に応じた気持ちのよいあいさつや言葉遣い、行動、対応ができる子

★地域と共に歩む子

- 地域と共に歩む学校を目指し学校教育活動を構想する。
- 地域との交流や連携を図るとともに、地域にある学習材を学校教育活動に生かしていく。
- 地域素材を生かした新城らしい教育活動を開発する。
- 地域を学ぶことで地域に対する愛着を深め、地域の発展を願い行動できる子を育てる。

今年度の重点目標

★健康でたくましい子の育成

- 体力向上に関わる取り組みの推進
- 地域と共に自ら考え、行動する防災・安全教育の充実
- 精神的な自立に向けての指導・支援
- 感染状況に応じた対応・指導

★よく考え

進んで行動する子の育成

- ESD・SDGsの実現や社会的な自立に向けた学びを創る
- 個に応じた学びや協働的な学びを生かす授業の工夫
- 生きる力、資質・を育むための主体的、対話的で深い学びへの授業改善

★仲良く助け合う子の育成

- 協働的な学びを通して学びや生活の基盤となるよりよく人とのかかわる力を育てる
- 人権尊重教育の徹底
- 道徳教育の充実
- 共生共育の推進
- 市民教育につながる創造的な特別活動の推進

★開かれた学校づくり

- 市制100周年に向けた活動を通して、わたしたちのまちへの愛着を深める。
- 地域や社会の教育力を生かした教育活動の創造と推進を図る。
- 近隣園や近隣校・企業や関係機関との連携。

新城小 GIGA スクール構想で「つながる・広がる・深まる」

重点にかかると具体的な取組

- ★授業、行事、特活、等を通して、学校生活や家庭生活の中に、外遊びや運動の定着を図る。
- ★保健教育・食育を通して、健康や安全についての関心・意欲・態度を育てる。
- ★防災・防犯教育を通して、保護者・地域と共に「自他の安全を守る」ための資質や能力を育てる。
- ★全教育活動を通して、児童の自主・自立に向けた指導と支援に取り組む。
- ★支援教育 Co を核とした多様な状況の児童や保護者の支援体制づくり。

- ★将来の社会的な自立に向け必要な能力や態度を育てる「新城小子ども未来教育」(在り方生き方教育)を推進する。
- ★学習指導要領が目指す資質・能力の育成と「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に取り組む。ESD・SDGの視点を生かした教育を推進していく。
- ★6年間の学びを意識し指導計画・評価規準を見直し、カリキュラムマネジメントを推進する
- ★児童一人ひとりがよさを発揮し意欲的に活動できる教育活動や市民教育を意識した児童会・特別活動等を推進する。

- ★川崎市子どもの権利に関する条例をふまえた人権尊重教育のさらなる充実を図りながら、優しい心配りや声掛けができる温かな人間関係を築いていく。
- ★特別の教科「道徳」の目指す「考え、議論する」道徳教育への転換を図り、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
- ★生き方を考える読書活動の充実
- ★居場所としての学級集団づくりを目指す。困り感のある子どもの支援体制づくり。
- ★国際理解と外国語活動

- ★「新城」というまちのもつよさを最大限に生かした教育活動を創造する。
- ★地域や保護者、企業等の支援を積極的に活用し、生き方を考える体験・活動、学校行事の充実を図っていく。
- ★園児・児童・生徒の各発達段階を踏まえスムーズに小学校の学びに繋げていくためのスタートカリキュラム。
- ★地域や社会の力を教育活動に、学びを通して人の思いや生き方を知ることで自分の在り方や生き方を考え、行動する土台をつくる。

2 「学校いじめ防止基本方針」策定の目的

いじめはどこの学校や集団にも、どの児童生徒にも起こりうる問題であり、いじめを次に示す定義のように捉えることは、いじめの行為があったかどうかを学校が判断し、法的な責任を負うことをねらいとするものでなく、いじめられている児童生徒の救済を第一にして対応するものです。そのために、学校は一人ひとりの児童生徒との信頼関係を築きながら、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に取り組むために「学校いじめ防止基本方針」を改訂します。

3 いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であつて、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいいます。

4 学校が実施する取組

(1) いじめの未然防止の取組

いじめを未然防止するには、いじめが発生しにくい学校の風土づくりが基本となります。教職員は児童生徒の理解を深め、信頼関係を築くとともに、一人ひとりを大切にされた授業を実践するように努めます。また、あらゆる教育活動を通じて、他人を思いやる心や正義を重んじる心などの豊かな人間性をはぐくみます。

① 学校体制を確立し、環境を整備します

いじめは絶対に許されないという共通認識に立ち、全教職員で児童生徒を見守っていくためには、いじめの予兆や悩みがある児童生徒を見逃さないしくみづくりや、インターネット上のいじめの防止、問題解決のための組織づくりをするとともに、相談活動がしやすい環境づくりや教職員の計画的な研修の実施など、学校体制を確立します。

② 児童生徒の心を受け止められる感性を磨き、教職員としての人間性を高めます

教職員自身が児童生徒から信頼されるよう自己研鑽し、人間性を高めるよう努力することは教職員としての基本です。児童生徒を一人の人間として尊重し、児童生徒の気持ちを理解し、児童生徒と感動を共有することができるか、自分の心が一人ひとりの児童生徒に向かって開いているか、絶えず自問します。

③ 児童生徒一人ひとりが生きる教育活動と効果的な学習活動を実践します

学校生活の大半を占める授業を「学ぶ楽しさ」が味わえる充実した時間にすることで、児童生徒は前向きに学校生活を送ることができるようになります。また、学校行事や体験活動などを工夫し、充実を図ることで他者と深く関わる経験を重ね、他者への思いやりや対人スキルを身につけさせます。

④ 児童生徒の自浄力を育てます

児童生徒自身に「自浄力」を身につけさせることは、未然防止のなかでもっとも重要です。児童生徒の自主的、主体的な活動が、「いじめをやめさせたいと思う児童生徒」を育て、いじめを抑制します。自校に誇りをもたせ「自分たちの学校ではいじめは許されない」という気運を高めていきます。

(2) いじめの早期発見

いじめの発見が遅れると、いじめの内容がエスカレートするばかりでなく、関わっている児童生徒が増加して関係が複雑になり、解決が困難になります。「いじめは見ようとしなければ見えない」と言われます。深刻な事態を招かないためにも児童生徒のわずかな変化を手がかりに、早期発見に全力を尽くします。

① 日常のきめ細やかな観察をします

普段の授業における児童生徒の顔色や姿勢、学習態度などは、児童生徒の理解を深める大切な情報です。また、授業以外のさまざまな場面での言葉づかいや行動、表情、視線、声をかけたときの反応を観察します。

② 相談体制を整備します

学校における教育相談体制を確立し、児童生徒や保護者に啓発することによって、いじめられている児童生徒や周りの児童生徒が相談しやすい環境をつくります。

③ 定期的なアンケート・チェックシートを実施します

定期的な学校生活アンケートや教職員用のチェックシート等を活用し、児童生徒の状態や指導法を客観的に把握し、いじめの早期発見につなげていきます。

(3) 校内いじめ防止対策会議の設置

校内いじめ防止対策会議（以下、「対策会議」という）は、いじめの防止等の中核となる組織として、校務分掌に位置づけ、「学校基本方針」に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正等を定期的（いじめを認知した場合には状況に応じて）に行い、校内いじめ対策ケース会議の情報を共有します。

(4) いじめへの対処

いじめの対応を担任一人だけで行くと、解決を遅らせ事態を悪化させる恐れがあります。いじめを認知した、またはその疑いがあった時点で全教職員に周知し、多方面からの確・迅速に対応する必要があります。さらに保護者への対応についても誠意を尽くし、問題解決に向けて信頼関係と協力体制を確立します。

① 校内いじめ対策ケース会議の立ち上げ

いじめの疑いがある情報があったときには、管理職、及び児童生徒指導担当者・支援教育コーディネーター等と当該事案に関わりのある教職員で構成された校内いじめ対策ケース会議（以下「ケース会議」という）を迅速に立ち上げ、個人情報に配慮しながら、いじめに関する情報の収集と情報共有、事実確認の方法や役割分担の確認、対応方針及び支援・指導体制の決定をし、解決に向けた支援・指導を行い、保護者との連携を管理職のリーダーシップのもと組織的に実施します。また、状況に応じて当該事案の対応方針及び支援・指導体制等の見直しを行います。

② いじめられた児童生徒への支援

- もっとも信頼関係ができていない教職員が対応し、「最後まで絶対に守る」という意思を伝えます。
- 児童生徒の意向を汲みながら、学校生活の具体的なプラン(登下校の方法など)を立てます。
- 心のケアや登下校・休み時間の見守りなど、安全で安心できる環境づくりに努めます。

③ いじめた児童生徒への指導

- よく事情を聞き、いかなる事情があっても、いじめることはいけないことだと教え、同じことを繰り返さないようにします。
- いじめた行為そのものは、よくないことと理解させつつ、相手に対して心身の苦痛を与えるような結果になってしまった理由を考えさせ、どこがいけなかったのか、どうしたらよかったのかを考えさせます。
- いじめに至った要因や背景を踏まえ、立ち直りに向けた相談活動や指導を継続的に行います。

④ 周囲の児童生徒への指導

- はやしたてたり、見て見ぬふりをしたりするのは、いじているのと同じだということを理解させます。
- いじめを防ぐことができなかったことを見つめなおさせ、再発を防ぐための具体的な手立てを指導します。

●必要に応じて学級、学年さらに学校全体に広げて再発防止へ向けた指導を行います。

⑤ 保護者への対応

●いじめに関係した児童生徒の保護者には迅速に事実を伝え、ケース会議で決定した指導方針と対応策を示すとともに、いじめ解消に向けて協力を要請します。

●解決するまで学校が主体性を発揮し、解決後も定期的に児童生徒の学校や家庭での様子を保護者と情報交換し、経過観察を行います。

5 重大事態への対処

(1) 重大事態の意味

次に掲げる場合を重大事態といたします。

① いじめにより児童生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。

② いじめにより児童生徒が相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

「いじめにより」とは、①②に規定する児童生徒の状況に至る要因が当該児童生徒に対して行われるいじめにあることを意味します。

①の「生命、心身又は財産に重大な被害」については、いじめを受ける児童生徒の状況に着目して判断します。例えば、

- 児童生徒が自殺を企図した場合
- 身体に重大な傷害を負った場合
- 金品等に重大な被害を被った場合
- 精神性の疾患を発症した場合

などのケースが想定されます。

②の「相当の期間」については、不登校の定義を踏まえ、年間30日を目安とします。

ただし、児童生徒が一定期間、連続して欠席しているような場合には、上記目安にかかわらず、教育委員会又は学校の判断により、迅速に調査に着手します。

また、児童生徒や保護者からいじめにより重大に被害が生じたという申し立てがあったときは、その時点で学校が「いじめの結果ではない」あるいは「重大事態とはいえない」と考えたとしても、重大事態が発生したものとして報告・調査等に当たります。

(2) 事実関係を明確にするための調査の実施

学校は、重大事態に至る要因となったいじめ行為が、いつ（いつ頃から）、誰から行われ、どのような態様であったか、いじめを生んだ背景事情や児童生徒の人間関係にどのような問題があったか、学校・教職員がどのように対応したかなどの事実関係を、可能な限り網羅的に明確にします。

なおこの調査は、民事・刑事上の責任追及やその他の争訟等への対応を直接の目的とするものでないことは言うまでもなく、学校が事実に向き合うことで、当該事態への対処や同種の事態の発生防止を図るものです。

6 令和6年度 いじめ防止対策組織・役割分担

【校内いじめ防止対策会議の構成】

校長、教頭、総括教諭、教務主任、支援教育コーディネーター、児童支援担当、養護教諭
学年主任 7名（支援級含む）・人権尊重教育・共生共育担当
スクールカウンセラー（要請による派遣）
スクールソーシャルワーカー（要請による派遣）

【いじめ防止対策の企画・運営】

- ・学校運営（学校評価）におけるいじめ防止に関する目標の設定・検証
…総括教諭、学年主任、教務主任、校長、教頭
- ・いじめ防止対策年間指導計画の作成…（教頭、支援教育CO）
- ・いじめ防止指導研修会の企画、運営…（教務主任、支援教育CO）
- ・いじめ問題に関する資料の管理…（支援教育CO）
- ・道徳教育との連携…（教科主任）
- ・学校いじめ防止基本方針の見直し…（校内いじめ防止対策会議構成員）

【教育相談】

- ・教育相談のねらい、年間計画の作成
 - 1年・・・・・・・・・・（1年主任）
 - 2年・・・・・・・・・・（2年主任）
 - 3年・・・・・・・・・・（3年主任）
 - 4年・・・・・・・・・・（4年主任）
 - 5年・・・・・・・・・・（5年主任）
 - 6年・・・・・・・・・・（6年主任）
 - 支援級・・・・・・・・（支援級主任）
- ・相談室窓口、相談室の管理、運営・・・・・・・・・・（支援教育CO）
- ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携・・・（校長・支援教育CO）

【保護者・地域との連携】

- ・児童会（運営委員会・代表委員会）との連携・・・・・・・・・・（運営委員会担当）
- ・PTA校外委員会との連携・・・・・・・・・・（教頭、教務主任）
- ・地域教育会議との連携・・・・・・・・・・（支援教育CO）

【関係機関との連携】

- ・警察との連携・・・・・・・・・・（支援教育CO）
- ・児童相談所との連携・・・・・・・・・・（支援教育CO）

7 令和6年度 いじめ防止等対策年間計画

月	活 動 内 容 (校内いじめ防止対策会議・児童指導部会・職員会議等)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針・重点目標の確認 ・構成員の確認・役割分担 ・年間指導計画確認 ・教育相談週間の実施 ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応方法等についての研修
5	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・かわさき共生＊共育プログラムの取り組み・効果測定の実施 ・いじめ防止標語の募集・ポスター制作
6	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒指導点検強化月間の取り組み（児童会を中心とした取組、いじめ^{ゼロ}標語等） ・6月の学校生活アンケート実施に向けた内容検討・実施 ・学校生活アンケート集約、学校生活アンケート結果を受けての対応・第1回児童教育相談 ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 <p>【児童生徒指導点検強化月間】（教育相談活動を通じた児童生徒理解の徹底など）</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・7月の学校生活アンケート実施・集約結果を受けての対応 ・教育相談週間の実施 ・夏休み期間中の対応確認
8	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・いじめの防止対策に関する研修会
9	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・9月の学校生活アンケート実施に向けた内容検討・実施 ・学校生活アンケート集約、学校生活アンケート結果を受けての対応・第2回児童教育相談 ・前期の反省とまとめと後期の具体的な取り組みの確認 ・情報モラル教育の実施
10	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・10月の学校生活アンケート実施・集約・結果を受けての対応
11	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・11月の学校生活アンケート実施・集約・結果を受けての対応 ・情報モラル教育の実施
12	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・教育相談週間の実施 ・学校評価アンケートの実施・集約・結果を受けての対応
1	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・かわさき共生＊共育プログラムの取り組み・効果測定の実施
2	<p>【学校体制振り返り月間の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・2月の学校生活アンケート実施に向けた内容検討・実施 ・学校生活アンケート集約、学校生活アンケート結果を受けての対応について・第3回児童教育相談
3	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・来年度に向けての基本方針の見直し

◎本校のいじめ防止に向けた取り組み

児童が発する小さなサインを見逃さないように努め、日頃から児童とのふれあいを大切にし、一人一人の児童との信頼関係を築きながら、いじめの未然防止や、早期発見・早期対応に取り組みます。また、児童の豊かな人間関係を育むためにさまざまな取り組みを行います。

児童の取り組み

○たてわり活動

異学年集団で児童が活動し、多くの人とふれ合うことで、お互いを理解し尊重しあいながら協力して活動する喜びや充実感を味わい、豊かな人間性を築くことができるように、年間を通してたてわり活動に取り組みます。

○あいさつ運動・委員会活動等

児童が自らの学校生活の充実と向上を図るためにできることを話し合い、実行します。その中で、代表委員の児童を中心に、朝のあいさつ運動に取り組みます。

○校外清掃活動

日頃生活の場や学習の場になっている新城の地域に感謝の気持ちを表すとともに、気持ちよく過ごすことができるようにするために校外清掃活動を行います。

○幼保小の交流

幼保小の交流を充実させ、発達の連続性をふまえた児童の育ちを保障するとともに、世話をする活動を通して豊かな人間性を築くことができるようにします。

保護者との連携による取り組み

○あいさつ運動

さまざまな人との人間関係を築くための基本となるあいさつを気持ちよくすることができるように、あいさつ運動に取り組みます。

○地域パトロール（PTA・おやじの会）

児童の校外での安全な生活や健全な人間関係を築くことができるように、地域のパトロールに取り組みます。

地域の方との連携による取り組み

○あいさつ運動

児童の見守りを兼ね、さまざまな人との人間関係を築くための基本となるあいさつを気持ちよくすることができるように、あいさつ運動に取り組みます。